

師走に入った。防火訓練、忘年会、年末の整理などにかと気忙しい時期である。職場では“××県人会”“同期の桜”など忘年会の話題もチラホラ、飲み屋の勧誘も忙しくなってきた。“今年も恒例の文書整理で終るか？否、コンピュータの新旧切換えがあったな……”など考えていた矢先、電話がなった。用件は“OR学会の会員会社であるが、貴社の昭和47年～48年のORレポートで4件参考をしたいのがある。見せてほしい。”ということであった。

早速、ORグループの連中に文書庫を調べてもらったが、2件しか見当たらなかった。昨年の文書整理でかなり整理したとのことであった。請求してきた人に対しては残念なことで、多分なにか困った上での請求であったと思う。やはりレポートは用が済んでもマイクロフィルムで残すとか保管の方法を考えなければならぬ、と反省させられた。こういうことが会員拡張の足がかりにもなるからである。

小生宅は南側に1000坪程の雑木林があって、しかも斜面になっている。その中で松の木の背の高いのが5、6本あって、そのおかげで12月に入ると午頃から拙宅は日陰になってしまう。今頃になると怨めしい思いでその松を見上げながら、暖房器具の準備をしたものである。しかし、これも今年限りだろうと思うとおかしくなる。

去年は、その影響を受けている3軒が相談をして、地主に“松を5、6本切らせてほしい。費用はこちらでもつし伐採料も払うから”と申し入れたことがあった。地主からのその回答は“何分にも斜面であるので大雨の時、斜面の下の家の浸水が心配だ。過去そういう苦情も聞かされているので、木を切ったために浸水した、という尻を持ち込まれても困る。だから、排水についての責任をとってくれるなら切ってもらっても結構です。”ということであった。排水工事となると大事である。“てめえの土地の排水工事を、むしろ被害者であるわれわれにやらせる気か！”と一戦やろうとしたが、それは思いとどまった。実は周辺を歩きまわってよく調べてみると、問題の松が早晩松食虫にやられる運命にある、ということがわかったからである。

現在、既に問題の松は松食虫にとりつかれて、葉が黄

褐色になり始めている。

今年問題は松を見上げながら、来年の今頃は、この松も丸坊主になって、うちは日当たりもよくなるなど思ったり、一方、地主の態度を思い出して苦笑が湧いてくるのである。

ところで、どうして松食虫を思いついたのか、それにはつぎのような経験があったからである。

拙宅の近所はTVゴーストのため、3年程前にテレビの共聴組合を結成して、かなり離れた処に共同アンテナを設置した。ところが、風の強い日に限って映像が時々歪んだり色が変わったりするのである。調査してもらった結果、アンテナの方角に松の大木が2本あって、風でその枝がゆれると映像が歪むということがわかった。早速地主に対して“費用はこちらでもつから枝降ろしをやらせてくれ”と交渉した。その結果、“あとの枝木材の始末までキチンとやってくれるなら宜しい”ということになった。ところが、請負業者の見積書を見てビックリした。斜面で何分にも大木であるので足場を作ったりで、確か20万円位だったと思う。まだ、積立て金もそれ程ないし、半ばあきらめていたのであるが、2カ月程たったらその松が枯れ始めたのである。それが松食虫の被害だったので地主は被害の拡大を恐れ、その松をさっさと切り倒してしまった。地主は“天災ですから”と言っていたそうだが、われわれにとってはラッキーであった。風が吹いても映像はビクともしないし、地主の心境は全く落語の“天災”だなあ、など喜んだものである。

拙宅南側の雑木林の松について、松食虫の被害がどのように及びそうか調べる気になったのは以上の経験があったからである。

さて、ORの仕事でも困った問題にぶつかると、過去の論文誌、自分の経験、その他のレポート類の中に、何か鍵はないものかと探すことが多いと思う。われわれも一仕事終ると、やれやれと一安心してすぐつぎの問題に取りかかることが多いのであるが、情報を積み重ねて後の仕事を有利に展開していくためには、小さな仕事でも必ずレポートを作って何らかの方法でファイルしておくようにしたいものである。(M.M.)

ORレポートのファイルは大切に